

公共放送に関する件

[議事録 1/3]

・公共放送を取り巻く混乱への対処

○吉川沙織君

民主党の吉川沙織でございます。

会長、経営委員長、それから監査委員、この三人の皆様とは2年前、糸井会長が1月25日にNHK会長に就任をされてから、それぞれ90分、80分、40分、最後が110分の質疑でございましたが、それぞれ公共放送の在り方を問うために質疑を重ねてまいりました。しかし、他委員会の方に移っておりましたので、こうやって直接いろんな形でNHKの在り方についてお伺いをさせていただくのは約二年ぶりということになります。



本日午後1時、衆議院本会議で平成28年度NHK予算案の採決がなされる予定です。全会一致とはなりませんが、採決をされれば可決をし、参議院の方に送付をされることになります。当委員会にすんなり付託されるかどうかはまだ分かりません。

久々に総務委員会に復帰をしましたが、この会長の会見の、つまり就任直後から状況は改善しているんでしょうか。改善している部分ももしかしたらあるかも分かりません。でも、職場の雰囲気を含めて、不祥事の連鎖は止まらず、悪化しているのではないかと言わざるを得ません。このままではNHKに対する国民・視聴者からの信頼を失いかねないと危機感の下、これから質問させていただきます。

冒頭申し上げましたが、糸井会長就任後、恐らくこれで三年連続NHK予算案が全会一致とならないことが見込まれます。このことに対する御所見、会長と経営委員長に伺いたいと思います。

○参考人(糸井勝人君)

もとより、我々はNHKの予算を、我々公共放送という立場からしても、全会一致で通していただくということを最大の眼目といたしております。誠心誠意我々も丁寧に説明をし、またそういうことを心掛けてまいりたつもりでございますけれども、皆さんの全員の十分な理解をいただくまでには至らなかつたということは極めて残念だというふうに思っております。

全会一致にならなかったという結果は、これは我々は真摯に受け止めて、参議院では全会一致で通していくだけるよう更に努力をいたす所存でございます。どうぞよろしく御指導お願いします。

○参考人(浜田健一郎君)

会長もお述べになりましたけれども、NHK はもとより受信料で成り立っている公共放送であり、そういう意味



では、放送法で定められた理念を実現するためにも全会一致は当然求められるべき事項かなというふうに思っています。そういう中で、衆議院では委員会で全会一致が得られなかつたということは大変残念だというふうに思つております。

経営委員会としても、全会一致のための努力を残された時間精いっぱいやっていきたいと

いうふうに思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○吉川沙織君

参議院総務委員会は、一昨年と昨年の附帯決議で、「経営委員会は、」と経営委員会を名指しで附帯決議の項目を起きました。衆議院総務委員会においては、一昨年附帯決議を付けましたが、経営委員会はと名指しをしていません。昨年の衆議院総務委員会はそもそも附帯決議を付けていません。一昨日の衆議院総務委員会は初めて経営委員会を名指しする附帯決議を付けましたが、我が参議院総務委員会は一昨年と昨年、「経営委員会は、協会の経営に関する最高意思決定機関として重い職責を担っていることを再確認し、役員の職務執行に対する実効ある監督を行うことなどにより、国民・視聴者の負託に応えること。」との附帯決議、附帯決議に関しては全会一致で議決をしています。

また、これを受け、平成 27 年 4 月 14 日、第 1235 回経営委員会では、「予算は通ったが、附帯決議で会長や経営委員会が名指しで触れられていることは重く受け止める必要がある。」、こういう意見交換が経営委員会の議事録の中に残されています。このことに対する受け止めを経営委員長に伺います。

○参考人(浜田健一郎君)

あの議事録のとおりでございまして、私どもとしては、そういう御指摘をいただきましたことは重く受け止めるべきだろうというふうに思っていますし、現在の委員会運営は、そういう御指摘をいただきまして、その御指摘にかなうべく委員会運営をやっているというふうに思っております。

○吉川沙織君

経営委員会として監督権限、職務機能を発揮していただくこと、実効ある監督責任を負うことこそがずっと求

められていると、そう思っています。でも、そうじゃないから、これだけいろんなことが続いて、昔の不祥事も含めて発覚をしてくるんだと思いますが、また別の観点から伺います。

2年前の6月17日、一人で110分質疑したときも取り上げました、理事の退任挨拶についてです。

平成26年4月22日、第1212回経営委員会、「職場には少しずつ不安感、不信感あるいはひそひそ話といった負の雰囲気が漂い始めています。現場は公共放送を担うことへの誇りと責任感を何とか維持しようと懸命の努力を続けていますが、限界に近づきつつあります。一刻も早い事態の収拾が必要です。」、こんな悲痛な退任挨拶が行われている議事録、私、二年前の質疑に当たって公表されている経営委員会の議事録は全て読みました。こんな挨拶は一度もありませんでした。でも、昨年も今年も同じような理事の退任挨拶が行われる結果となってしまいました。

会長、いかがですか。

○参考人(柳井勝人君)

退任された理事につきましては私は個人的な意見を述べられたものだというふうに思っておりますので、私



がそういうスピーチに対してコメントしようとは思っておりません。

私自身について申し上げれば、それはいろんなことがありましたけれども、二年前に会長に就任してからこの間、自分としてもNHKをより良くするためにベストを尽くしてきたつもりでございます。結果としていろんな不祥事が起こったりして誠に申し訳なく思っておりますが、更に今後

ともNHKを改革して、やはりみんなが一丸となって、より良いNHK、視聴者の皆様に信頼されるようなNHKにしていく覚悟でおります。よろしくお願ひします。

○吉川沙織君

会長は職務がお忙しいですから、過去の経営委員会の議事録御覧になつてないと思いますが、こんな挨拶は三年連続あることの方がおかしいと思います。そういう環境をつくったのは、放送法第51条に定められるように、協会を総理する立場にある会長にあると思いますので、そこは、来年はどうなっているか分かりませんけれども、しっかりとそういう挨拶がなされないようなトップを含めた職場環境をつくっていただきたいと思います。

続きの議事録(2/3)は、[こちら](#)です。